

いもう 葦毛通信



ツルウメモドキの果実

2022年3月15日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 122

1、2021 年度作業報告ー1

葦毛湿原は昨年10月11日に国指定天然記念物になりました。そのため、植生回復作業を行うにあたり、国指定後に文化財保護法に基づく現状変更許可申請を行いました。許可が下りるまでは市の判断でできる外来種の駆除を行ってきましたが、許可後の12月14日から本格的な大規模植生回復作業を開始しました。

1) 外来種の駆除

外来植物としては、ダンドボロギク、ベニバナボロギク、メリケンカルカヤ、アメリカセンダングサを中心に、ブタナ、ヒレタゴボウ、キダチコンギク等様々な種類が出現しています。これまでも、4～10月は月1回の定期作業で外来種の駆除を行ってきましたが、葦毛湿原の外から風に乗って種子が運ばれてくるので、外来種を根絶するのは難しい状況です。葦毛湿原では、湿原内で開花し、種子を散布させないことを目標にして作業を行っています。



外来種駆除作業（2021年12月21日）

2) 除草等のための準備作業

葦毛湿原では、明るい森に復元したところを中心にササが勢いを増しています。日照が確保されると春に開花する植物の発芽が促進されるのでササを刈っています。下写真はカザグルマの茎を確認して刈り取られないようにテープで囲っているところです。

カザグルマだけではなく、トキソウ等の数が少なくなっている植物の自生範囲もテープで囲って除草作業で刈り取られないように保護しています。



テーピング作業（2021年12月21日）



テープで囲んだ範囲（2021年12月23日）

3) M地点礫除去実験

M地点は地表面が特に大きな礫に厚く覆われています。礫自体は上流からの転石で自然に堆積したのですが、人頭大の礫がいくつも転がっています。ここは礫が厚く堆積することにより湿生植物の発芽が悪く、ネザサが一部にみられるくらいでした。下右写真は左側から続いた部分で、中段の作業後の写真は2枚を繋げてパノラマ状にしています。

作業後でもまだ一面に礫が見られますが、大きな礫がなくなり、礫の間に黒い土が見られるようになりました（最下段右側の写真）。除去した礫は中央広場の隅に大・中・小の



M地点南東側作業前（2021年12月8日）

M地点南西側作業前（2021年12月8日）



M地点南東側作業後（2022年3月13日）

M地点南西側作業後（2022年3月13日）



除去した礫（2022年3月14日）

礫除去後の状況（2022年3月14日）

大きさ別に積み上げています（前頁最下段左側の写真）。これだけの量の礫が、埋土種子がある層の上に堆積して地表面を覆っていたのですから、黒色土の中に含まれていた埋土種子がうまく発芽できなかったのも無理はないと思います。

今回の作業は**埋土種子の発芽を阻害している要因を除去すること**が目的でした。これにより多くの種類の湿生植物の埋土種子が発芽してくると予想しています。

4) O地点根除去実験

O地点は抜根後3年目の状況を葦毛通信 No. 103 で報告し、イヌノハナヒゲを刈り取るところと根まで除去するところを設定する実験をして、その結果を葦毛通信 No. 115 で報告し



O地点南東側作業前（2021 年 12 月 8 日） **O地点南西側作業前**（2021 年 12 月 8 日）



O地点南東側作業後（2022 年 3 月 13 日） **O地点南西側作業後**（2022 年 3 月 13 日）

ました。その結果、根まで除去したところはトウカイコモウセンゴケが目立って増え、その他の湿生植物の種類も増えました。そこで、今年度は刈り取っただけのところも根を除去しました。上写真の上段が作業前で、左側が根まで除去したところ、右側が刈り取っただけのところ。作業直前で植物が枯れた状態ですが、左側は地表面が見えて礫や水が溜まったところの確認できます。右側はイヌノハナヒゲが優勢になっており、地表面は全く見えません。

下段の写真は根の除去作業後の写真で、全面に黒色土が見え、一部で水溜まりもでき水分が多いことが確認できます。画面奥はイヌノハナヒゲ群落で、比較のために手を付けていないところです。イヌノハナヒゲ群落が優勢になっており、トウカイコモウセンゴケは

衰退しています。

イヌノハナヒゲはヒメヒカゲの食草になっているので、ここにヒメヒカゲが産卵に来るのかを確認していましたが、残念ながらほとんど訪れていないようです。ヒメヒカゲも絶滅寸前ですが、G地点のようにイヌノハナヒゲ群落が出現してヒメヒカゲが飛来するようになったところも確認していますが、O地点ではほとんど確認できていません。

右写真はO地点全体を東から見たところです。右側を水路が流れ木道に挟まれたところは水量が多く良好な湿地状態を保っています。右上写真はイヌノハナヒゲが優勢な群落になっていますが、この左奥側は根まで除去したところで、トウカイコモウセンゴケ、ミズギボウシ、ミミカキグサ等の湿生植物が多く発芽しています。



O地点作業前（2021年9月28日）

右下写真はイヌノハナヒゲの根を除去したところです。冬に雨が少なくやや乾燥気味ですが、左側の奥は小さな水溜りが見られ、かなり湿っています。全体が良好な湿地になると予想しています。

この実験区は今後もイヌノハナヒゲを選択的に除去して、明るい湿地状態を保って経過を観察する予定です。

これ以外のL・M地点等では、ハルリンドウやミカワバイケイソウが自生しているところの草刈りを行っています。



O地点作業後（2022年3月13日）

葦毛湿原は江戸時代以前から秣場として利用され、草を刈るという行為が繰り返し行われてきたところです。草を刈れば地表面の日照が十分に確保されることになり、在来種の植物の発芽にとって良い影響があると考えられるので、今年は積極的に草を刈る実験区も設定していくつもりです。